静岡新聞で学ぼう

Newspaper in Education

静岡新聞

記事を読んで、問いに答えましょう。

2022年 3月2日夕刊

育てサンゴ 海守る心

沼津の水族館

内浦湾 群落回復に力

沼津市内浦の水族館「伊豆・三津シーパラダイス」が、同館前に広がる内浦湾に生息するサンゴの保全活動に力を入れている。減少するサンゴの保全につなげるため、施設の水槽で飼育して来館者らに環境保護を呼び掛けている。担当者は「SDGs（持続可能な開発目標）が注目される中、多くの人にサンゴの現状を知ってもらいたい。豊かな海を守る意識を高めてほしい」と思いを込める。

同館によると、同市久連沖にはサンゴ「エダミドリイシ」の群落が存在していたが、1996年冬の異常低水温やウニの一種ガンガゼによる食害、台風の被害などで減少したという。現在は小さな株が点在する状態になっている。サンゴの群落は小さな生き物のすみかとなるため、減少によって周辺の生態系の変化に影響している可能性もある。

同館は2007年に駿河湾を紹介する水槽を展示するため、海からエダミドリイシを採取。近海の魚と一緒に水槽で育てたことをきっかけに、保全活動に乗り出した。サンゴを育てて海に戻し、群落を回復させようと取り組んでいる。

多くの人が訪れる水族館という施設の強みを生かし、SDGsと連動した保全活動の啓発を始めている。昨年オープンした施設「みとしーラボ」では、約5～10センチのエダミドリイシなど近海のサンゴ約20株が育つ様子を展示。サンゴを増やす取り組みや同館とSDGsとの関わりを伝えるパネルを設置した。幅約4メートルの水槽では、7年かけて成育し、30センチほどに成長したサンゴを紹介している。

10年ごろには数年かけて育てたサンゴを海に戻したが、多くが死んでしまったという。同館の学芸員春日保さん(38)は「原因は海の環境変化にある。サンゴはデリケートで死滅するのは一瞬。施設のそばの海にすむ貴重な生物を守りたい。次世代を担う地域の子どもたちにも地元の海の豊かさを伝えられたら」と言葉に力を込める。

（東部総局・山本萌絵佳）

伊豆・三津シーパラダイス内の「みとしーラボ」で展示しているサンゴを観察する春日保さん＝1月下旬、沼津市内浦

エダミドリイシ　緑や褐色のサンゴで房総半島以南の太平洋岸に分布する。1991年の環境庁（当時）の調査では、沼津市久連沖の群落は5000平方メートルの規模だった。久連沖の群落は北限だと思われる。沿岸の浅瀬などに生息し、海底に草むらのように広がって育つ。プランクトンを捕食したり、共生する褐虫藻（かっちゅうそう）が光合成したりすることで成長する。

近海の20株飼育、展示

①沼津市の内浦湾に群生していたサンゴが減少した原因として考えられていることは何ですか。

［　　］

②サンゴの群落を回復させようとする取り組みはSDGsのどんな目標と関係しますか。

［　　］

③サンゴの保全活動を水族館で行う「強み」は何ですか。記事を参考に30字以内で書きましょう。

年　　組　　名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター　矢沢和宏

（小学校高学年～中学校／理科、社会、総合）

静岡新聞で学ぼう

解答例

静岡新聞

2022年 3月2日夕刊

記事を読んで、問いに答えましょう。

育てサンゴ 海守る心

沼津の水族館

内浦湾 群落回復に力

沼津市内浦の水族館「伊豆・三津シーパラダイス」が、同館前に広がる内浦湾に生息するサンゴの保全活動に力を入れている。減少するサンゴの保全につなげるため、施設の水槽で飼育して来館者らに環境保護を呼び掛けている。担当者は「SDGs（持続可能な開発目標）が注目される中、多くの人にサンゴの現状を知ってもらいたい。豊かな海を守る意識を高めてほしい」と思いを込める。

同館によると、同市久連沖にはサンゴ「エダミドリイシ」の群落が存在していたが、1996年冬の異常低水温やウニの一種ガンガゼによる食害、台風の被害などで減少したという。現在は小さな株が点在する状態になっている。サンゴの群落は小さな生き物のすみかとなるため、減少によって周辺の生態系の変化に影響している可能性もある。

同館は2007年に駿河湾を紹介する水槽を展示するため、海からエダミドリイシを採取。近海の魚と一緒に水槽で育てたことをきっかけに、保全活動に乗り出した。サンゴを育てて海に戻し、群落を回復させようと取り組んでいる。

多くの人が訪れる水族館という施設の強みを生かし、SDGsと連動した保全活動の啓発を始めている。昨年オープンした施設「みとしーラボ」では、約5～10センチのエダミドリイシなど近海のサンゴ約20株が育つ様子を展示。サンゴを増やす取り組みや同館とSDGsとの関わりを伝えるパネルを設置した。幅約4メートルの水槽では、7年かけて成育し、30センチほどに成長したサンゴを紹介している。

10年ごろには数年かけて育てたサンゴを海に戻したが、多くが死んでしまったという。同館の学芸員春日保さん(38)は「原因は海の環境変化にある。サンゴはデリケートで死滅するのは一瞬。施設のそばの海にすむ貴重な生物を守りたい。次世代を担う地域の子どもたちにも地元の海の豊かさを伝えられたら」と言葉に力を込める。

（東部総局・山本萌絵佳）

伊豆・三津シーパラダイス内の「みとしーラボ」で展示しているサンゴを観察する春日保さん＝1月下旬、沼津市内浦

エダミドリイシ　緑や褐色のサンゴで房総半島以南の太平洋岸に分布する。1991年の環境庁（当時）の調査では、沼津市久連沖の群落は5000平方メートルの規模だった。久連沖の群落は北限だと思われる。沿岸の浅瀬などに生息し、海底に草むらのように広がって育つ。プランクトンを捕食したり、共生する褐虫藻（かっちゅうそう）が光合成したりすることで成長する。

近海の20株飼育、展示

①沼津市の内浦湾に群生していたサンゴが減少した原因として考えられていることは何ですか。

（1996年）冬の異常低水温や（ウニの一種）ガンガゼによる食害、台風の被害など

②サンゴの群落を回復させようとする取り組みはSDGsのどんな目標と関係しますか。

海の豊かさを守ろう（豊かな海を守る）

③サンゴの保全活動を水族館で行う「強み」は何ですか。記事を参考に30字以内で書きましょう。

▽多くの人に施設の水槽で実際のサンゴを見てもらうことができる。（30字）
▽海に関心のある来館者が多く、環境保護の意識も高まりやすい。（29字）
▽生態系としての展示ができるため、説得力のある訴えができる。（29字）　など

年　　組　　名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター　矢沢和宏

（小学校高学年～中学校／理科、社会、総合）